

令和3年度 第1回 男女平等推進市民会議 会議要録

日 時：令和3年5月31日（月）18:30～19:30

場 所：WEB会議（Zoom）により開催

参加者：名取 はにわ会長・本田 純副会長・林 恭子委員・澤田 さなえ委員・有賀 千歳
委員・岩崎 明子委員・山本 桂子委員・功 刀 隆委員・山下 一美委員

事務局：市民部長・生活文化課長・男女共同参画係長・男女共同参画係員

○議題

- ・議題（1）委嘱書・任命書の交付

～オンライン形式のため委嘱書・任命書交付を省略、自己紹介を行う～

- ・議題（2）諮問書の交付

～諮問書を市民部長より代読～

- ・議題（3）令和元年度事業の進捗状況評価に係る表彰について（報告）

事務局：新型コロナウイルス感染症の拡大により、市民会議に代わり事務局より企画調整課・産業政策課、介護福祉課、健康課、子育て支援課・児童青少年課、指導室、生活文化課の8課に対して表彰を行ったので報告する。

- ・議題（4）東久留米市第3次男女平等推進プランの進捗状況評価について（令和2年度事業）

事務局：資料2にあるように、今年度は10月29日を答申期限として4回の会議を予定している。進捗状況評価の進め方については、案として、昨年度同様に分野別に3つのワーキンググループ（以下WG）に分かれて評価作業を行い、全体の会議、ヒアリングを経て最終的な評価・答申をいただくという流れで考えている。昨年度との大きな違いは、答申期限が2ヶ月ほど前倒しになっている点である。その理由は、進捗状況評価の結果を各課の事業へより早く反映できるようにするためである。WGのグループ分けについては、事務局案を作成したので、資料4で確認をお願いしたい。

会 長：この説明に対してご意見があればどうぞ。

委 員：評価方法について、各課の連携が重要であり、報告を書く際は連携について詳細に記載して欲しい。事業として一つの課では解決できないことが多いと感じており、ぜひこの点をお願いしたい。

事務局：そのようにしたい。

- 委員：報告書の字を大きくして頂きたい。
- 事務局：確かに字が細かくて見づらいところがあるので、拡大して印刷するなど対応したい。
- 会長：他にご意見等なければ、案のとおりに進めていきたい。
- ～了承～
- ～WGグループ分け（以下のとおり）～
- 第1WG(目標Ⅰ～Ⅲ)：名取会長(リーダー)、山本委員、岡 刀委員
- 第2WG(目標Ⅳ)：有賀委員(リーダー)、林委員、山下委員
- 第3WG(目標Ⅴ～Ⅵ)：本田副会長(リーダー)、澤田委員、菅野委員、岩崎委員
- ・議題（5）「東久留米市男女平等・共同参画に関するアンケート調査」について
- 事務局：資料5は、平成28年度に行われたアンケート調査で、第3次男女平等推進プランの基礎資料となったものである。今年度、次のプランを策定するために、アンケート調査を実施する予定であるが、その前に追加、修正した方が良い点などあればご意見を伺いたい。
- 会長：まず、簡単に項目について事務局より説明をお願いしたい。
- 事務局：大きく分けて、「あなた自身のこと」、「家庭生活」、「子育てと介護」、「仕事と職場」、「地域活動」、「ワーク・ライフ・バランス」、「防災」、「男女平等」、「配偶者からの暴力」、「性的マイノリティ(性的少数者)」、「自由記述」となっている。
- 会長：アンケートの質問事項などについてご意見があればどうぞ。
- 委員：市民2千人を対象とあるが、統計学的に分析していく場合に、何番が何人で何%という情報も重要かもしれないが、可能であれば相関分析を取り入れた方がよいと思う。例えば、40代が子育て・介護についてどう考えているかなど、各項目について関連性を調べていくと実態をつかみやすいのではないか。アンケートの内容も綿密に細かく分類されており、すごくよいのだが、分析する時にはやりにくいという面もあるのかなと思う。
- 事務局：アンケートのサンプル数について、東京都は4千人で、小平市、西東京市が2千人、清瀬市が千人ということである。東久留米市の人口で考えるとどれくらいが適切なのかということもあるので、今後、事業者に委託する中で、分析方法も含めて検討していきたい。
- 委員：問15で、「男性の方が優遇されている」、「女性の方が優遇されている」とあるが、「優遇されている」ではなく「決定権を持っている」という表現の方がよいと思う。
- 会長：アンケート中の「優遇されている」という文言は国が行っているアンケート調査と統一が取れており、国や他の地域との比較という点で有意義なところもあるので、変更は難しいのではないかと。
- 委員：前回のアンケートの回答率はどれくらいか。

事務局：手元に正確な資料がないが、30%から40%であった。

委員：回答者の方に、何か特典のようなものはあるか。

事務局：コロナ禍で予算的にも厳しく特典を付けることは難しい。ただ、今回は、郵送だけでなく、ホームページでも回答できるようにして、若い方も回答しやすくしたいと考えている。

委員：内容について3点ほど気づいたことを述べたい。まず、1ページ目の「ご記入にあたってのお願い」の3で「男女問わずお答えください」とあるが、「性別を問わず」の方がよいのではないか。次に、2ページ目の「あなたの性別は」という設問で、「実際の日常生活における近い方いずれかに○」という記述があるが、恐らく性的マイノリティの方々への配慮ということだと思うが、当事者の方に話を聞くと、失礼に当たるのではないかということなので、「男性」、「女性」以外に「その他（）」を選択肢として設けるか、「自身のアイデンティティに沿って選んでください」とするか、「答えなくてもよい」とするのが適切ではないか。次に、13ページの間21-2で、配偶者暴力について相談していない理由を聞いているが、「誰に相談してよいかわからない」という選択肢は、「どこに相談してよいかわからない」と変えた方が適切だと思う。

事務局：ご意見を参考に文言について考えていきたい。また、配偶者暴力の相談先について、相談先情報の紹介もできるような質問を考えていきたい。

委員：9ページの防災のところ、冒頭に「東日本大震災においては、避難所によっては、衛生用品等の生活必需品が不足したり、授乳や着替えをするための場所がなかったり」とあるが、それに続けて「性暴力や性被害に遭うこともあった」という文言を入れてはどうかと思う。

事務局：アンケートをとおして性暴力・性被害などの課題があることを知ってもらうのも重要だと考えられるので、参考にしたい。

会長：以上、皆様から有益なご意見をいただいたので、これらを参考に事務局の方で考えてほしい。

・議題（6）その他

事務局：次回はWGとなる。6月下旬から7月上旬になる見通しである。事務局よりグループごとに日程を調整させて頂きたい。

○次回会議（ワーキンググループ）